

## ワクチン接種後の SARS-CoV2 抗体検査及び HISCL SARS-CoV2 S-IgG 試薬の検討について

◎八重倉 祐樹<sup>1)</sup>、瀬戸山 仁<sup>1)</sup>、稲田 光則<sup>1)</sup>、後藤 寛法<sup>1)</sup>、柳 真由美<sup>1)</sup>、川田代 恵李香<sup>1)</sup>、梅田 かおり<sup>1)</sup>  
公益財団法人 鹿児島県民総合保健センター<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

わが国で接種が行われている新型コロナウイルスワクチンは、いずれも新型コロナウイルス感染症の発症を予防する高い効果があり、重症化を予防する効果が期待されている。今回我々は、中和抗体となり得る S-IgG を測定することで、接種後の S-IgG がどの程度作られているか、またどの程度持続するか等、経時的に経過を調べたので報告する。

## 【対象・方法】

当センター職員でワクチン接種を行った 265 名(男性 58 名、女性 207 名)を対象とした。接種後 1,3,6 ヶ月後に採血を行い抗体価の測定した。また、本研究は鹿児島県民総合保健センター倫理委員会の承認を得て施行した。

## 【測定試薬と分析機器】

測定試薬はシスメックス株式会社の HISCL SARS-CoV-2 S-IgG(以下：S-IgG 試薬)を使用した。分析機器は全自動免疫測定装置 HISCL5000(化学発光酵素免疫測定法：シスメックス株式会社)を使用した。カットオフ値は 20.0BAU/mL を使用した。測定範囲は 5.0～500.0BAU/mL(原倍測定時)、

200～20,000.0BAU/mL(自動希釈(40 倍)時)を使用した。

## 【結果】

抗体が生成され抗体価が高いと考えられる接種 1 ヶ月後の抗体価は、最大値 3103.7BAU/mL、最小値 5.0BAU/mL、全体平均値 527.9BAU/mL となった。また 3、6 ヶ月後の結果は当センターにおいても減少傾向にあった。

## 【まとめ】

抗体価については各メーカーが独自に単位やカットオフ値を設定しており、どの程度抗体が存在すれば予防の効果があるかは明確にはなっていない。本研究については検証段階であり、3 回目のブースター接種も行われるので今後も継続していきたいと考える。

連絡先 公益財団法人鹿児島県民総合保健センター  
臨床検査課  
099-220-2332(内線 309)